

「年齢別に見た女性の意識と行動調査 '93」

「年齢別に見た男性の意識と行動調査 '92」にみる

現代人の子供観 男女比較

根強い従来型の男子らしさ・女子らしさ
男女とも同じ子供像を描いている

1994/04/08

ポーラ文化研究所
村澤・渡辺

はじめに

昨年4月、ポラ文化研究所で実施している「年齢別に見た男性の意識と行動調査‘92」より関連するデータを抽出して「子供の日を前に、現代男性の考える男の子観、女の子観」というミニレポートを発表した。そのミニレポートの結論では、現代男性は子供たちに対して従来と変わらない男の子らしさ、女の子らしさを求めていることを述べた。

今回のレポート「現代人の子供観 男女比較」では、昨年実施した「年齢別に見た女性の意識と行動調査‘93」の結果を加えて、現代女性のもつ子供観、男の子らしさ、女の子らしさを明確にし、さらに男性との意識の違いを探ったものである。

現代人の考えている子供観、男の子らしさ、女の子らしさの一端が明確になれば幸いである。

目的

「年齢別に見た女性の意識と行動調査‘93」および「年齢別に見た男性の意識と行動調査‘92」より、両者に共通して質問している、「子供が一人しかできないときに男子が欲しい理由」と「子供が一人しかできないときに女子が欲しい理由」、「しつけで大切な点」、「受けさせたい教育」、子供たちを「働かせたい職場」のイメージ、「一人の場合、男子が欲しいか女子が欲しいか」の5点についての回答を抽出して、「男子」と「女子」に対する意識の違い、および男女差を明確にする。

目次

	ページ
結果	2
1. 「男子が欲しい理由」と「女子が欲しい理由」	2
2. 「しつけで」大切な点	4
3. 受けさせたい教育レベル	7
4. 子供たちを「働かせたい職場」のイメージ	8
考察に代えて	10
添付資料	11

「年齢別に見た女性の意識と行動調査‘93」

調査対象：東京駅を中心とする半径30km圏内に居住する16歳から65歳までの女性
1000人

調査対象者抽出法：エリアサンプリング法

調査方法：個別訪問面接聴取法および留置法

調査期間：1993年6月19日～7月10日

「年齢別に見た男性の意識と行動調査‘92」

調査対象：東京駅を中心とする半径30km圏内に居住する16歳から65歳までの男性
1050人

調査対象者抽出法：エリアサンプリング法

調査方法：個別訪問面接聴取法および留置法

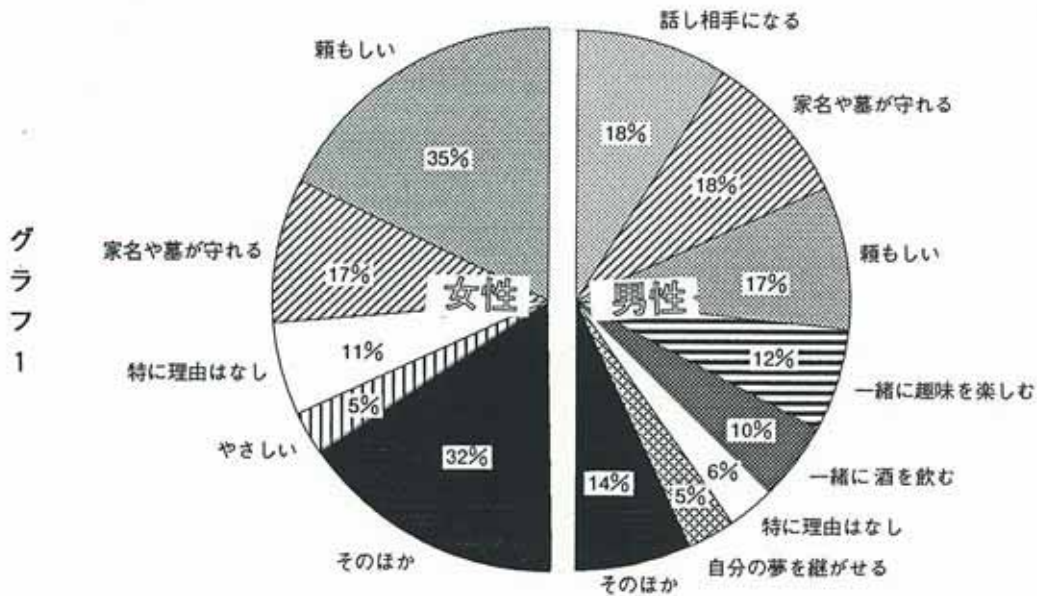
調査期間：1992年6月19日～7月10日

結果

1. 「男子が欲しい理由」と「女子が欲しい理由」

この質問は、「子供が一人しかできないときに男子、女子のどちらを望むか」を聞いた後、その理由を19ある選択肢から回答してもらっている。(詳細は添付資料を参照のこと。グラフでは5%以下の回答は「そのほか」にまとめている。以下同じ)

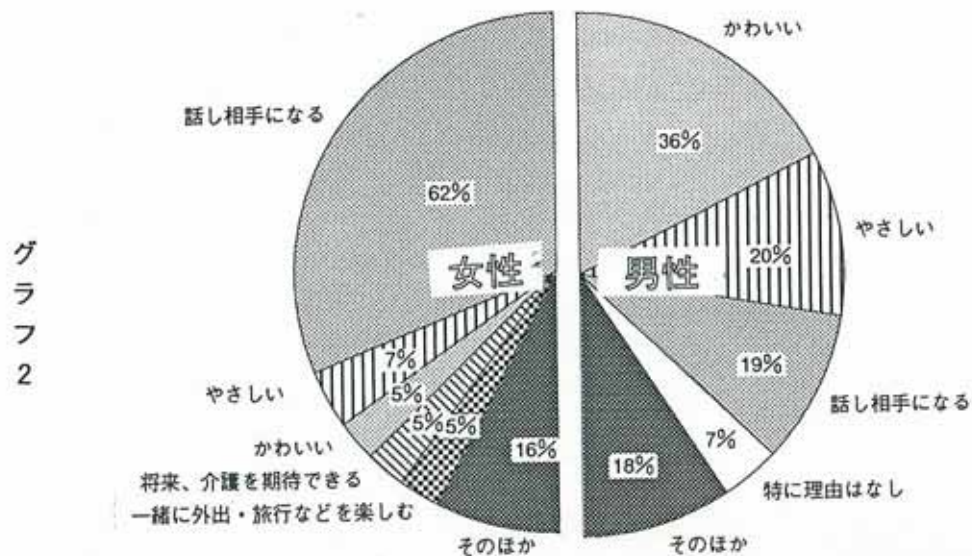
①「男子が欲しい最大の理由」(男性の回答率 349/1050 女性の回答率 172/1000)



女性
「頼もしい」が35%で一番高く、「家名や墓が守れる」17%、「特に理由はなし」11%、「やさしい」5%と続く。

男性
「話し相手になる」と「家名や墓が守れる」がそれぞれ18%で1位。続いて「頼もしい」が17%で、「一緒に趣味を楽しむ」「一緒に酒を飲む」が12%、10%と続く。

②「女子が欲しい最大の理由」(男性の回答率 203/1050 女性の回答率 425/1000)



女性
「話し相手になる」が62%と3分の2近い高差を示し、「やさしい」7%、「かわいい」「将来、看護を期待できる」「一緒に外出・旅行などを楽しむ」がそれぞれ5%となる。

男性
「女子」の場合はまったく違った様相を呈す。第1位が「かわいい」で36%。「やさしい」「話し相手になる」が20%、19%と、この3項目で全体の4分の3を占める。

③男子と女子の違い

男性から見ると、「話し相手になる」は男子と女子に共通している。両者の違いは、「男子」の「家名や墓が守れる」「頼もしい」に対して、「女子」はまず「かわいい」でつぎに「やさしい」となる。「男子」に対する期待と「女子」に対する期待が、生まれる以前から異なることがわかる。

一方、女性から見ると、「やさしい」は共通するが、「男子」には「頼もしい」「家名や墓が守れる」ことを、「女子」には圧倒的に「話し相手になる」ことを求めている。

男性女性とも、「男子」「女子」に対して求めることが異なっている。

④回答者の男女差

女性にとって「女子」は「話し相手になる」ほどのお友達的つきあいが浮かんでくるが、男性にとっては「かわいくてやさしい」という従来的な像である。

男性にとっての「男子」は女性にとっての「女子」と同様、「話し相手になる」「一緒に趣味を楽しむ」「一緒に酒を飲む」という仲間的な要素がある一方、「家名や墓が守れる」「頼もしい」のような「家」あるいは「家庭や家族を守る」要素も求められている。

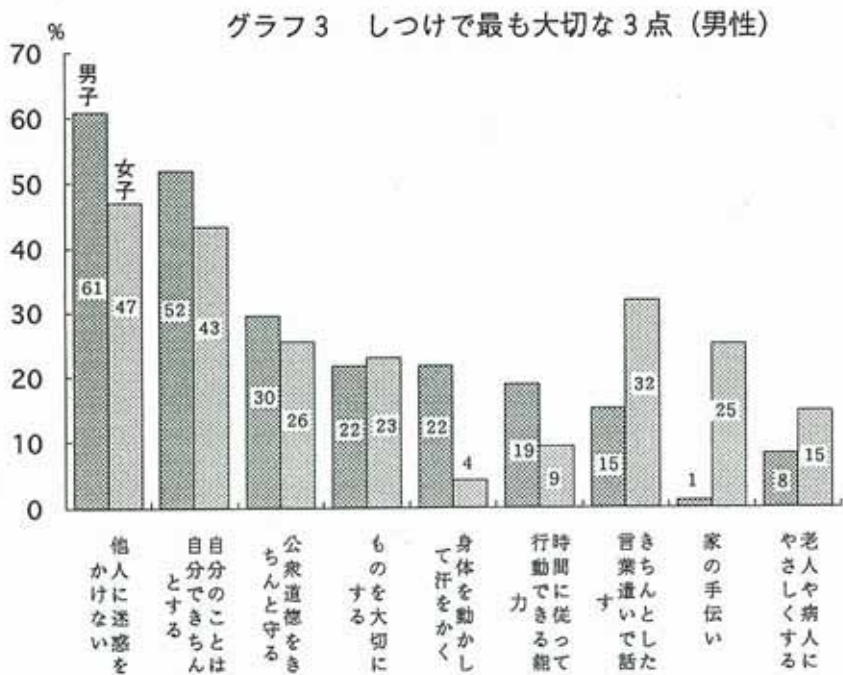
女性にとっての「男子」は、「頼もしい」「家名や墓が守れる」のような「家」あるいは「家庭や家族を守る」要素が強く求められている。

このように「欲しい理由」は回答者の男女でも違い、欲しい「男子」「女子」でも違っている。

2. 「しつけで」大切な点

この項目は、しつけに関する20項目の選択肢より選んでもらっている（詳細は添付資料の質問用紙を参照のこと）。ここでは最も大切な3点のデータを中心に議論している。

①男性が回答した「しつけで最も大切な3点」

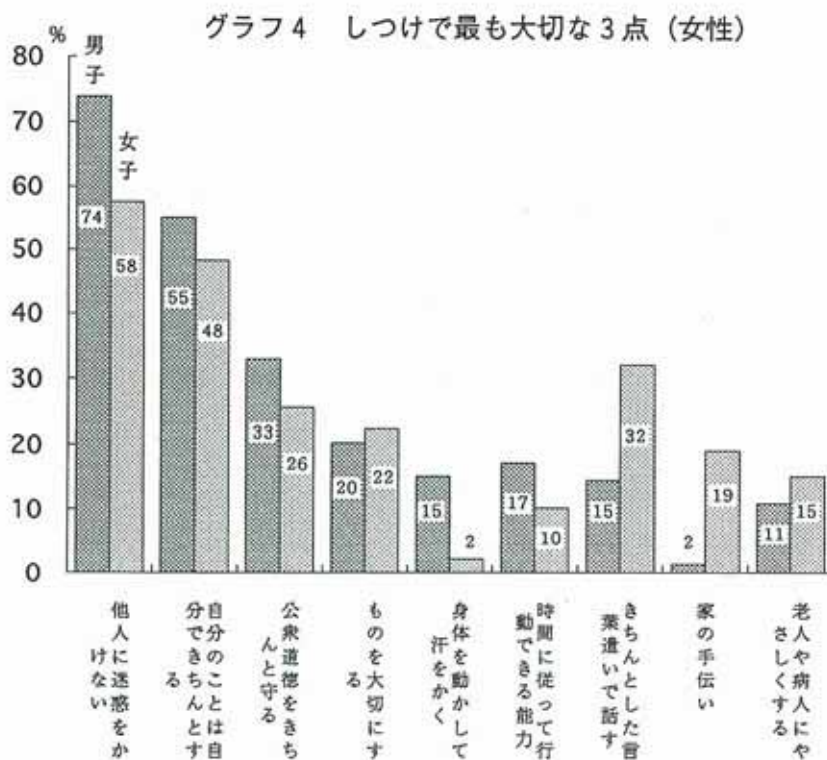


男子に対しては、6位までを見ると、「他人に迷惑をかけない」は61%、「自分のことは自分できちんとする」52%、「公衆道徳をきちんと守る」30%「ものを大切にする」22%、「身体を動かして汗をかく」22%、「時間に従って行動できる能力」19%の順となる。

それに対して女子では、「他人に迷惑をかけない」47%、「自分のことは自分できちんとする」43%、「きちんとした言葉遣いで話す」32%、「公衆道徳をきちんと守る」「家の手伝い」25%、「ものを大切にする」23%となる。

男子に特徴的な項目は「身体を動かして汗をかく」と「時間に従って行動できる能力」、女子では「きちんとした言葉遣いで話す」「家の手伝い」である。

②女性が回答した「しついで最も大切な3点」



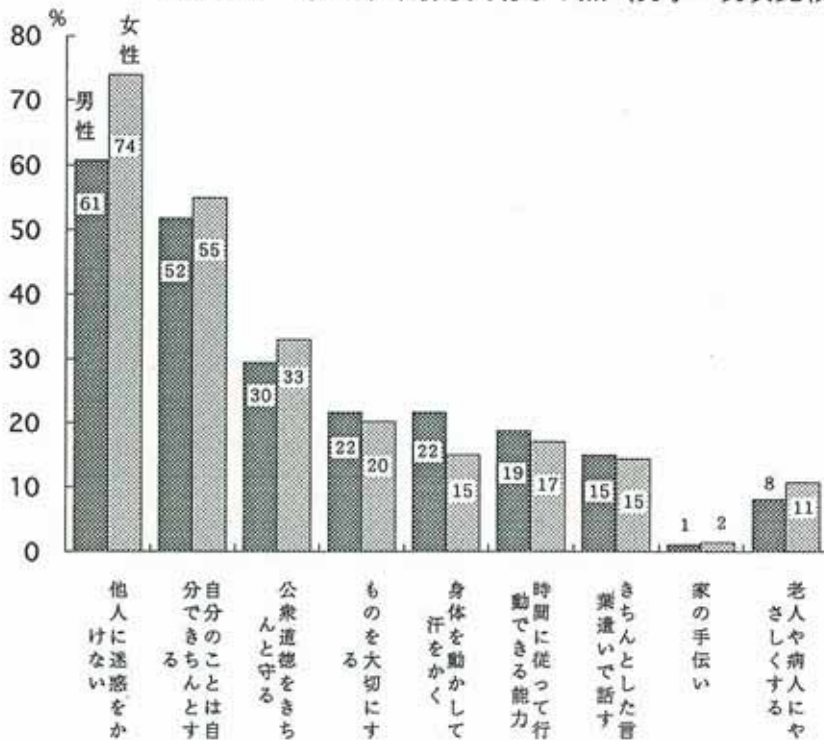
女性は、男子に対しては「他人に迷惑をかけない」は74%、「自分のことは自分できちんとする」55%、「公衆道徳をきちんと守る」33%「ものを大切にする」20%、「時間に従って行動できる能力」17%、「身体を動かして汗をかく」15%の順となる。

女子に対しては「他人に迷惑をかけない」58%、「自分のことは自分できちんとする」48%、「きちんとした言葉遣いで話す」32%、「公衆道徳をきちんと守る」26%、「ものを大切にする」22%、「家の手伝い」19%となる。

男子の特徴的な項目は、男性と同様に「身体を動かして汗をかく」と「時間に従って行動できる能力」、女子では「きちんとした言葉遣いで話す」「家の手伝い」である。

③「男子のしつけで最も大切な3点」男女比較

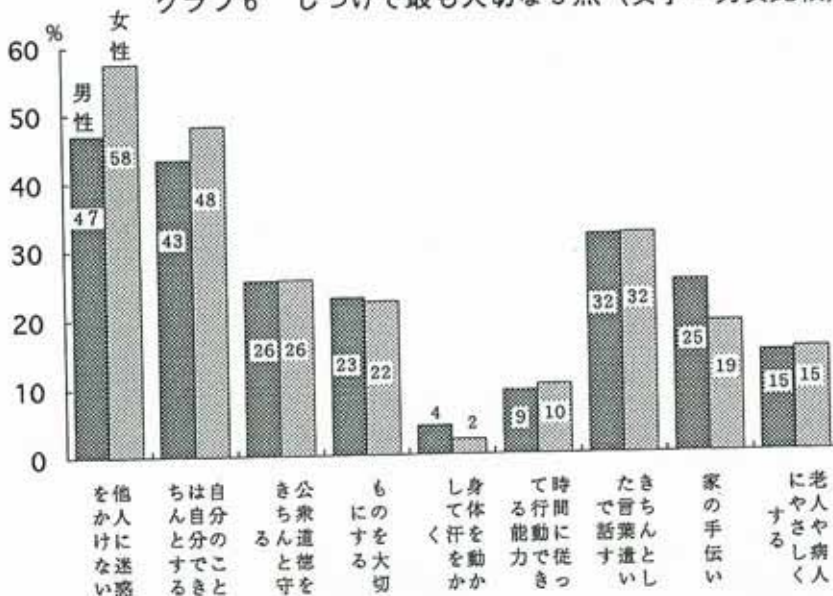
グラフ5 しつけで最も大切な3点（男子・男女比較）



前項、前々項がしつける側（親）を軸として子供側の男女差を見ているのに対して、この項と次項はしつけられる側（子供）を軸に親の側の男女差を分析している。グラフ5は男子に対して、男性と女性でどのような違いがあるかを見ている。一位の「他人に迷惑をかける」を女性の方がより高く支持している傾向が見られるが、基本的な意識は男性も女性もほぼ同じと判断できよう。

④「女子のしつけで最も大切な3点」男女比較

グラフ6 しつけで最も大切な3点（女子・男女比較）



この項でも、前項の男子と同様、1位2位の「他人に迷惑をかけない」「自分のことは自分できちんとする」で女性の方がより高く支持している傾向が見られるが、基本的な意識は男性も女性もほぼ同じである。

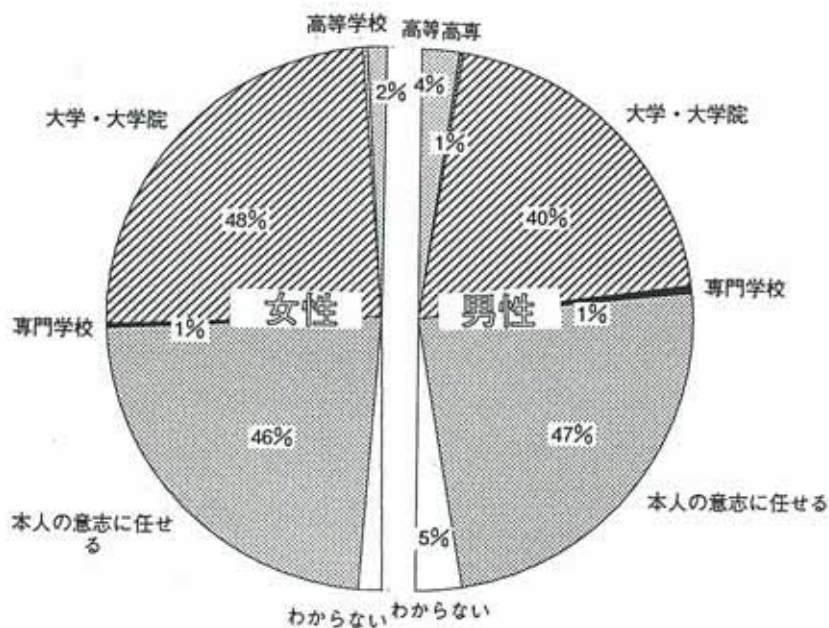
⑤男子と女子の違いと回答者の男女差

男性も女性も同じように、男子、女子を考えていることが、以上でわかった。そのなかで男性女性に共通して、男子に「身体を動かして汗をかく」と「時間に従って行動できる能力」が高く、女子では「きちんとした言葉遣いで話す」「家の手伝い」が高く出てくる。ここに描かれる男子像、女子像は従来の男女像である。
以上の結果から、男性も女性も、しつけに関してかなり共通した意識があることがわかった。

3. 受けさせたい教育レベル

①「受けさせたい教育レベル 男子」

グ
ラ
フ
フ

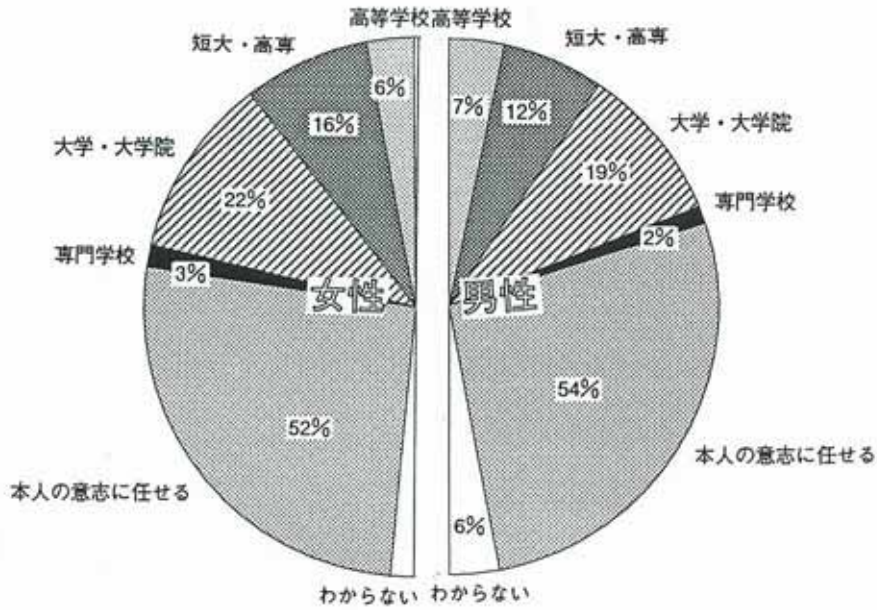


女性
男性では2位だった「大学・大学院」が48%で1位に、「本人の意志に任せる」が46%で2位となり、この2項目で95%近くを占める。

男性
「本人の意志に任せる」が1位で47%、続いて「大学・大学院」が40%となる。この2項目で9割近くを占める。

②「受けさせたい教育レベル 女子」

グ
ラ
フ
8



女性
「本人の意志に任せる」が52%で1位を占め、「大学・大学院」の22%、「高専・短大」の16%、「高等学校」の6%と続く。

男性
「本人の意志に任せる」が54%で1位を占め、以下「大学・大学院」19%、「高専・短大」12%、「高等学校」7%と続く。「男子」では二者択一的結果であったが、「女子」では選択肢が多い回答であった。

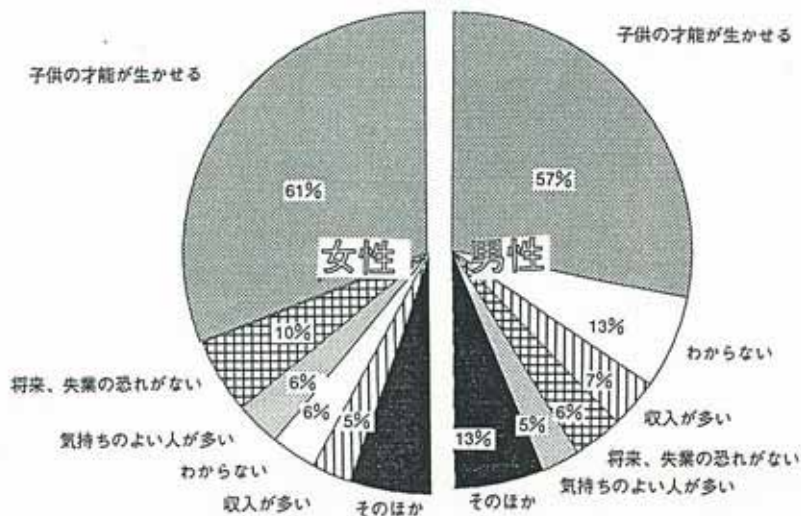
③男子と女子の違いと回答者の男女差

教育を受ける側の「男子」に対する回答者の男女差、および「女子」に対する回答者の男女差はほとんどないが、「男子」と「女子」の間には明確な回答の違いがある。

4. 子供たちを「働かせたい職場」のイメージ

①「男子を働かせたい職場のイメージ」

グ
ラ
フ
9

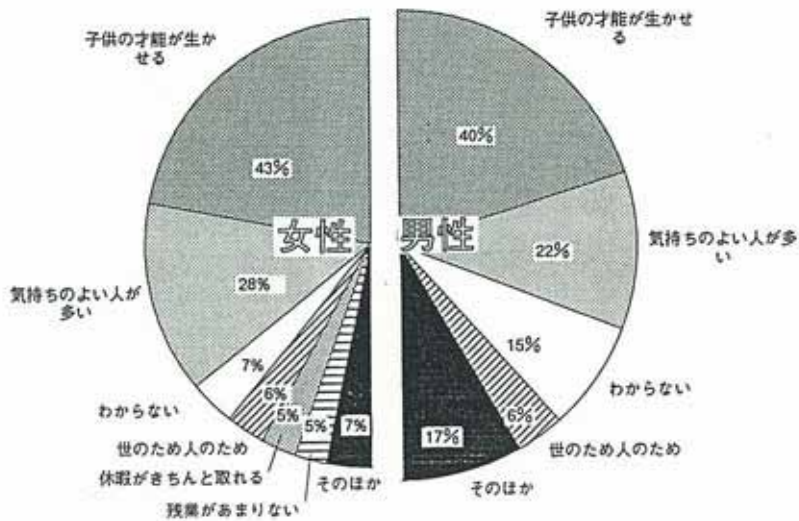


女性
「子供の才能が活かせる」が61%で1位で、半数以上を占めている。2位以下の傾向は男性の場合とほぼ同じである。

男性
「子供の才能が活かせる」が57%で1位。「わからない」が13%いるが、「収入の多い」「将来、失業の恐れがない」「気持ちのよい人が多い」

②「女子を働かせたい職場のイメージ」

グラフ
10



女性
第1位が「子供の才能が活かせる」で43%、続いて「男子」で6%だった「気持ちのよい人が多い」が28%と男性より増える。続いて「わからない」「世のため人のため」「休暇がきちんと取れる」「残業があまりない」となる。

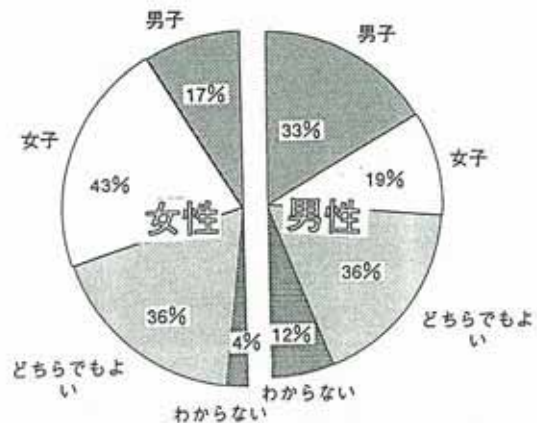
男性
「子供の才能が活かせる」は40%と半数以下となり、「男子」で5%だった「気持ちのよい人が多い」が22%と増える。続いて「わからない」「世のため人のため」となる。

③男子と女子の違いと回答者の男女差

この場合も、回答者の男女差よりも回答者のもっている「男子観」「女子観」の違いの方が明確な結果が出ている。

最後に、最初の結果でも触れた「子供が一人の場合、男子が欲しいか女子が欲しいか」の結果をグラフ11に示す。男女とも基本は、同性を選択しているが、「どちらでもよい」がそれぞれ3分の1以上いる。そのなかで敢えて言えば、女性の方がより女性を選択する傾向にあらう。

グラフ11 子供が一人の場合の男女選択

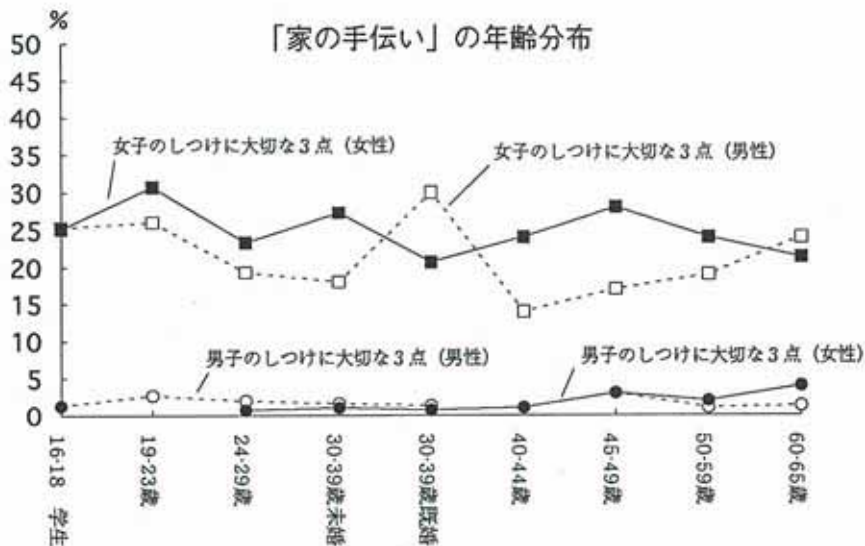


考察に代えて

「年齢別に見た意識と行動調査」(92、93)より、「子供が一人しかできないときに男子が欲しい理由」と「子供が一人しかできないときに女子が欲しい理由」、「しつけで大切な点」、「受けさせたい教育」、子供たちを「働かせたい職場」のイメージについての回答を抽出して、「男子」と「女子」に対する意識の違い、および回答者としての男女差の結果を見てきた。

全体としてまず言えることは、回答者としての男女差がたいへん少ないこと、回答者が男女にかかわらず共通した「男子観」「女子観」をもっていることである。

しかも次のデータ(男女で明確な差があった「家の手伝い」)に代表されるように、高校生から65歳まで、年代による明確な差はほとんど見られない。



つまり調査結果は、「男子」に対する意識、あるいは期待と異なる「女子」に対する意識、あるいは期待が、各年代にほぼ共通して存在することを示している。

その異なる意識は、一言で言えば、伝統的な男性像であり、女性像である。言い換えれば、従来型の男女の性役割の範疇を越えていないことを意味する。

前回、男性だけの調査結果をまとめた時、その結果があまりに従来通りのパターンであったため、80年代の女性の意識の変化に対して男性は変わっていない、と考えていた。しかし、今回の女性の結果はそれ以上に予想外のことであった。なぜそうなのか、本当にそうなのかというような疑問が湧いてくるが、少なくとも今回の調査では以上述べてきたような結果である。

この結果に対して考察を深めようとする、ほかの調査項目との関連やさらに詳細に突っ込んだデータおよびデータ分析が要求されようが、勝手ながら次の機会に譲りたい。